

令和2年度行政事業レビューシート (国土交通省)											
事業名	BIMを活用した建築生産・維持管理プロセス円滑化モデル事業			担当部局庁	住宅局			作成責任者			
事業開始年度	令和2年度	事業終了 (予定) 年度	令和4年度	担当課室	建築指導課			課長 深井 敦夫			
会計区分	一般会計										
根拠法令 (具体的な 条項も記載)				関係する 計画、通知等							
主要政策・施策				主要経費	その他の事項経費						
事業の目的 (目指す姿を簡 潔に。3行程度 以内)	建築分野における生産性向上や働き方改革、国際競争力の強化等を図るため、BIMを活用するための市場環境を整備することを目的とする。										
事業概要 (5行程度以 内。別添可)	官民が一体となって建築分野でのBIMの推進を図る目的で設置した「建築BIM推進会議」(令和元年6月設置)における、BIMの標準ワークフローとその活用方策に関する議論の成果をとりまとめたガイドライン第1版(令和2年3月末策定)を、建築プロジェクトに試行的に活用し、定量的なメリットや具体的な課題、改善方策等の報告を行う事業に対し、その検証費用の支援を行う。										
実施方法	補助										
予算額・ 執行額 (単位:百万円)			平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度要求				
	予算 の 状 況	当初予算	-	-	-	200	240				
		補正予算	-	-	-						
		前年度から繰越し	-	-	-	-					
		翌年度へ繰越し	-	-	-						
		予備費等	-	-	-						
	計		0	0	0	200	240				
	執行額										
	執行率 (%)		-	-	-						
当初予算+補正予算に対す る執行額の割合 (%)		-	-	-							
令和2・3年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目		2年度当初予算	3年度要求	主な増減理由						
	(項)住宅市場整備推進費				「新型コロナウイルス感染症への対応など緊要な経費の要望額」240 百万円						
	(事項)住宅市場の環境整 備の推進に必要な経費										
	(目)住宅市場整備推進等 事業費補助金		200	240							
	計		200	240							
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標		成果指標			単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
					成果実績	-	-	-	-	-	-
					目標値	-	-	-	-	-	-
					達成度	%	-	-	-	-	-
根拠として用いた 統計・データ名 (出典)											
成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載										チェック	

定量的な成果目標の設定が困難な場合	定量的な目標が設定できない理由		定性的な成果目標と平成29～令和元年度の達成状況・実績								
	定量的な目標が設定できない理由及び定性的な成果目標		本事業は、建築BIM推進会議において、実用に耐える標準ワークフロー等を取りまとめるために、議論の成果を建築プロジェクトに試行的に活用し、検証を行うものであるため。								
事業の妥当性を検証するための代替的な達成目標及び実績	代替目標	代替指標		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度		
	本事業の結果を活用し、建築BIM推進会議において実用に耐える標準ワークフロー等を令和4年度までにとりまとめる。		実績	-	-	-	-	-	-		
	様々な関係者や契約の実情に応じた標準ワークフローのとりまとめ		目標値	-	-	-	-	-	-		
			達成度	%	-	-	-	-	-		
活動指標及び活動実績（アウトプット）	活動指標			単位	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度 活動見込	3年度 活動見込		
	支援件数（本事業で支援する建築プロジェクト数）		活動実績	-	-	-	-				
			当初見込み	-	-	-	-	8			
単位当たりコスト	算出根拠			単位	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度活動見込			
	X:実績額(百万円) / Y:支援件数(件)		単位当たりコスト	百万円/件	-	-	-	25			
			計算式	X/Y	-	-	-	200/8			
政策評価、新経済・財政再生計画との関係	政策評価	政策	1. 少子・高齢化等に対応した住生活の安定の確保及び向上の促進								
		施策	2. 住宅の取得・賃貸・管理・修繕が円滑に行われる住宅市場を整備する								
	新経済・財政再生計画改革工程表 2019	KPI (第二階層)		単位	計画開始時 - 年度	元年度	2年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度		
			成果実績	-	-	-	-	-	-		
			目標値	-	-	-	-	-	-		
		達成度	%	-	-	-	-	-			
本事業の成果と取組事項・KPIとの関係											

事業所管部局による点検・改善

	項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	人口減少が進む中、他分野と同様、建築分野における業務効率化や生産性向上を図ることが喫緊の課題である。このため、BIMの活用を促進するための市場環境を整備することは、建築分野における生産性の向上に直結するものであり、社会的ニーズを反映している。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	未来投資戦略2018(平成30年6月15日閣議決定)及び成長戦略フォローアップ(令和元年6月21日閣議決定)において、行政・インフラに関する生産性向上の実現に向けた具体的施策のひとつにBIMの活用を促進を挙げており、国が分野横断的な検討等を主導し、早急に市場環境を整備する必要がある。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	本事業は、建築生産・維持管理プロセスにおけるコスト削減に直結しているため、未来投資戦略2018(平成30年6月15日閣議決定)及び成長戦略フォローアップ(令和元年6月21日閣議決定)に挙げられている。建築分野における生産性向上を達成するために必要かつ適切であり、優先度が高いものである。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	-	
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。		
	競争性のない随意契約となったものはないか。		
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-	
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	-	
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	-	
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	-	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	-	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	-	
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-	
	所管府省名	事業番号	事業名
点検・改善結果	点検結果		本事業は、BIMの活用を促進するための市場環境を整備することで、未来投資戦略(平成30年6月15日閣議決定)及び成長戦略フォローアップ(令和元年6月21日閣議決定)に挙げられている建築分野における生産性向上に直結するものであり、事業目的の妥当性、及び国の施策として推進する必要性が認められる優先度の高い事業である。
	改善の方向性	-	
外部有識者の所見			
-			
行政事業レビュー推進チームの所見			
BIMの活用は建築分野の生産性の向上につながる重要な課題であることから、当該技術の普及につながるような、課題の抽出、改善方策の検討を効率的に実施する必要がある。			

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

所見を踏まえ、BIMの活用による建築分野の生産性向上に向けて、BIMの普及につながるような、課題の抽出、改善方策の検討を効率的に実施する。

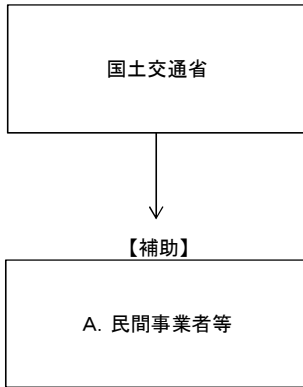
備考

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度	-	平成23年度	-	平成24年度	-	平成25年度	-
平成26年度	-	平成27年度	-	平成28年度	-	平成29年度	-
平成30年度	-						
平成31年度	国土交通省 (新32 - 0002)						

※令和元年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
 (単位: 百万円)



〔 建築BIM推進会議における議論の成果を実際の建築プロジェクトに活用し、課題や改善方策の報告を行う 〕

令和2年度行政事業レビューシート (国土交通省)

事業名	木造住宅・都市木造建築物における生産体制整備事業			担当部局庁	住宅局	作成責任者					
事業開始年度	令和2年度	事業終了(予定)年度	令和4年度	担当課室	住宅生産課木造住宅振興室	室長 遠山 明					
会計区分	一般会計										
根拠法令 (具体的な条項も記載)				関係する計画、通知等	住宅市場整備推進等事業費補助金交付要綱						
主要政策・施策				主要経費	その他の事項経費						
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	木造住宅を担う大工技能者の減少・高齢化が進行する中、処遇改善、働き方改革、外国人受入れや女性活躍等といった環境変化に対応しつつ、大工技能者を確保・育成することを目的とする。また、拡大余地のある非住宅や中高層の木造建築物(都市木造建築物)について、これを担う設計者等を支援することにより、都市木造建築物の生産体制を整備することを目的とする。										
事業概要 (5行程度以内。別添可)	(1)大工技能者等に関する民間団体が全国統一的に実施する大工技能者等の確保・育成の取組及び地域における複数の大工技能者関係機関が連携して実施する大工技能者等の確保・育成の取組に対して支援する。 (2)散在する都市木造建築物の設計に資する技術情報を集約・整理し、設計者へ一元的に提供する情報インフラを整備する取組、都市木造建築物の設計に関する講習・技術サポート体制の整備に対して支援する。 【補助金の額】(1)(2)当該事業の実施に要する経費以内の額										
実施方法	補助										
予算額・執行額 (単位:百万円)			平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度要求				
	予算 の 状 況	当初予算	-	-	-	500	600				
		補正予算	-	-	-	-					
		前年度から繰越し	-	-	-	-					
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-					
		予備費等	-	-	-	-					
	計		0	0	0	500	600				
	執行額		0	0	0	-					
	執行率 (%)		-	-	-	-					
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合 (%)		-	-	-	-					
令和2・3年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目		2年度当初予算	3年度要求	主な増減理由						
	(項)住宅市場整備推進費				「新型コロナウイルス感染症への対応など緊要な経費の要望額」80百万円						
	(大事項)住宅市場の環境整備の推進に必要な経費				木造住宅・都市木造建築物の生産体制整備をより一層推進するため						
	(目)住宅市場整備推進等事業費補助金		500	600							
	計		500	600							
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標		成果指標			単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標 2年度	目標最終年度 7年度
	令和7年度までに新築住宅における認定長期優良住宅の割合を20%までに引き上げる		新築住宅における認定長期優良住宅の割合		成果実績	%	11.3	11.5	12.1	-	-
					目標値	%	-	-	-	16	20
					達成度	%	56.5	57.5	60.5	-	-
根拠として用いた統計・データ名 (出典)											
国土交通省住宅局調べ(全国の所管行政庁の認定実績)											
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標		成果指標			単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標 -年度	目標最終年度 7年度
	令和7年度までにリフォームの市場規模を12兆円まで引き上げる		リフォームの市場規模 ※住宅・土地統計調査は5年に一度の調査であるため、実績は-となっている		成果実績	兆円	-	7	-	-	-
					目標値	兆円	-	-	-	-	12
					達成度	%	-	58.3	-	-	-
根拠として用いた統計・データ名 (出典)											
住宅・土地統計調査(総務省)、家計調査年報(総務省)、建築着工統計(国土交通省)、住宅着工統計(国土交通省)、国土交通省住宅局調べ(大規模修繕等及び賃貸住宅リフォーム)											
成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載										チェック	

活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度 活動見込	3年度 活動見込	
	活動実績	当初見込み							
採択事業件数	活動実績	件		-	-	-			
	当初見込み	件		-	-	-	25		
単位当たり コスト	算出根拠		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度活動見込		
	X: 執行額(百万円) / Y: 採択事業件数(件)	単位当たり コスト					百万円	-	-
		計算式	X/Y		-	-	-	500/25	
政策評価 政策評価、新経済・ 財政再生計画との関係	政策	1. 少子・高齢化等に対応した住生活の安定の確保及び向上の促進							
	施策	2. 住宅の取得・賃貸・管理・修繕が円滑に行われる住宅市場を整備する							
	測定指標	定量的指標		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標 2年度	目標年度 7年度
		新築住宅における認定長期優良住宅の割合 (認定数 / 新設住宅着工戸数)	実績値	%	11.3	11.5	12.1	-	-
			目標値	%	-	-	-	16	20
		定量的指標		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標 -年度	目標年度 7年度
		リフォームの市場規模	実績値	兆円	-	7	-	-	-
			目標値	兆円	-	-	-	-	12
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係								
	本事業の実施による木造住宅の施工技術体制整備により、長期優良住宅等の資産として継承できる良質で安全な新築住宅の供給拡大が期待されるとともに、耐震性を満たさない住宅の建て替えやバリアフリー化されていない住宅等のリフォームによって安全で質の高い住宅への更新及びリフォーム市場規模の拡大が期待される。								
取組事項	分野:	-							
(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時 -年度	元年度	2年度	中間目標 -年度	目標最終年度 -年度	
	-	成果実績	-	-	-	-	-	-	
		目標値	-	-	-	-	-	-	
(第二階層) KPI	KPI (第二階層)		単位	計画開始時 -年度	元年度	2年度	中間目標 -年度	目標最終年度 -年度	
	-	成果実績	-	-	-	-	-	-	
		目標値	-	-	-	-	-	-	
本事業の成果と取組事項・KPIとの関係									
-									

事業所管部局による点検・改善

	項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	新築、リフォーム等により国民へ住宅を供給する地域の木工職人の減少対策、本格的な利用期を迎えている我が国の森林資源の活用法の2つの課題解決に向けた取組を行う本事業は、国民及び社会のニーズを反映している。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	大工育成、木材活用の課題解決において、全国規模、各地方の工務店協会や、木造関係団体との連携は不可欠となっており、地方自治体や民間ではなく、国が主導して事業を推進する方が効率的なため。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	急激な減少を続ける木工職人数の確保は優良な住宅供給、リフォーム等によるストックの活用を行う上で不可欠である。また、本格的な利用期を迎えている我が国の森林資源は、9秒で住宅1戸分と秒単位で量を増しており、森林資源活用は地域活性化を実現するためにも重要な戦略資源となるため、緊急課題となっている。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	公募により補助事業を選定する。
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無	
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	本事業は、大工技能者等の確保・育成の取組、都市木造建築物の設計に資する技術情報を設計者へ提供する情報インフラを整備する取組、都市木造建築物の設計に関する講習・技術サポート体制の整備に係る費用に限定して支出することとしており、受益者との負担関係は妥当である。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	補助事業者に対して補助金の使途やその必要性を確認し、不要なコストの削減に努めることとし、単位コスト等の水準は妥当である。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	補助事業者に対して補助金の使途やその必要性を確認し、不要なコストの削減に努めることにより、真に必要なものに限定する。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	
	繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	-		
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	-	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	-	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	-	
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-	
	所管府省名	事業番号	事業名
点検・改善結果	点検結果	木造住宅の担い手である大工技能者の減少・高齢化が進む中、木造住宅及び都市部における非住宅や中高層の木造建築物(都市木造建築物)の生産体制の整備を図るため、民間団体等が行う大工技能者等の確保・育成の取組や、拡大余地のある都市木造建築物を担う設計者の育成・サポート等の取組に対する支援を行う。	
	改善の方向性	-	

外部有識者の所見

行政事業レビュー推進チームの所見

地域における住宅生産を支える大工技能者や都市木造建築物を担う設計者の育成に着実につながる取り組みを適切に選定し、支援していく必要がある。

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

令和2年度の執行状況等も踏まえて、大工技能者や都市木造建築物の設計者の取り組みを適切に支援する。

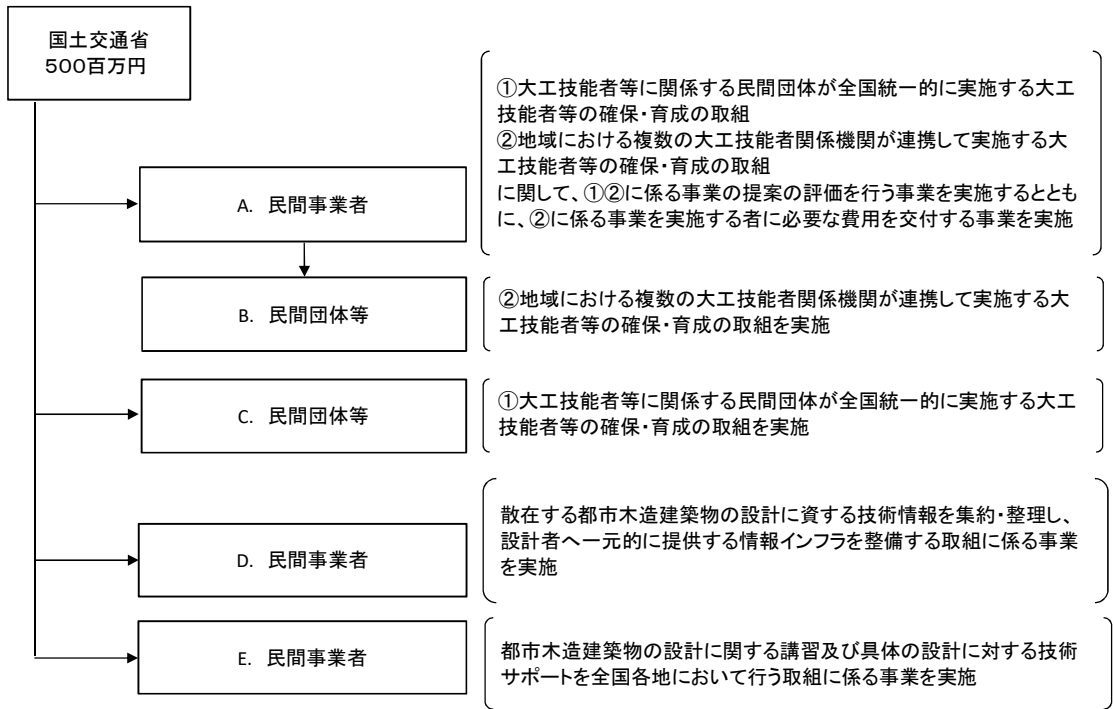
備考

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度	-	平成23年度	-	平成24年度	-	平成25年度	-
平成26年度	-	平成27年度	-	平成28年度	-	平成29年度	-
平成30年度	-						
平成31年度	国土交通省 (新32 - 0003)						

※令和元年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
行っているかについて
補足する)
(単位: 百万円)



令和2年度行政事業レビューシート (国土交通省)

事業名	マンションストック長寿命化等モデル事業			担当部局庁	住宅局	作成責任者			
事業開始年度	令和2年度	事業終了 (予定)年度	令和6年度	担当課室	市街地建築課マンション政策室	室長 立岩 里生太			
会計区分	一般会計								
根拠法令 (具体的な条項も記載)				関係する計画、通知等	マンションストック長寿命化等モデル事業補助金交付要綱				
主要政策・施策				主要経費	公共事業				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	高齢年マンションの適正な維持管理を促進するとともに、長寿命化に資する改修等によるマンションの円滑な再生を図る取組を推進するため、マンションの長寿命化に向けた先導的な改修等に対して支援を行い、先導事例・ノウハウ等を収集し、全国への水平展開を図ることを目的とする。								
事業概要 (5行程度以内。別添可)	老朽化マンションの長寿命化等の課題解決を図る取組で、先導性が高く創意工夫を含む以下の事業を実施する団体等を支援する。 ①計画支援型(先導性の高い長寿命化等に向けた事業を実現するための必要な調査・検討等への支援) ②工事支援型(老朽化マンションの長寿命化に向けて、先導性が高く創意工夫を含む改修・修繕等への支援) 補助率・補助限度額 ①計画支援型 1事業当たり500万円まで ②工事支援型 補助対象費用の1/3								
実施方法	補助								
予算額・執行額 (単位:百万円)			平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度要求		
	予算 の 状 況	当初予算	-	-	-	1,700	1,700		
		補正予算	-	-	-	-			
		前年度から繰越し	-	-	-	-			
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-			
		予備費等	-	-	-	-			
	計		0	0	0	1,700	1,700		
	執行額		-	-	-	-			
	執行率 (%)		-	-	-	-			
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合 (%)		#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	-			
令和2-3年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	2年度当初予算	3年度要求	主な増減理由					
	(項)住宅防災事業費								
	(事項)住宅防災事業に必要な経費								
	(目)住宅市街地総合整備促進事業費補助	1,700	1,700						
	計	1,700	1,700						
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標 -年度	目標最終年度 7年度
	令和7年度までに、25年以上の長期修繕計画に基づく修繕積立金額を設定している管理組合の割合を70%以上とする。	令和7年度までに、25年以上の長期修繕計画に基づく修繕積立金額を設定している管理組合の割合を70%以上とする。	成果実績	件	-	53.6	-	-	-
			目標値	件	-	-	-	-	70
			達成度	%	-	76.6	-	-	-
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	「住生活基本計画(全国計画)(平成28年3月18日閣議決定)第2 目標5」 (国土交通省「平成25年度マンション総合調査」)								
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度 活動見込	3年度 活動見込
	長寿命化等に関する事業の採択件数			活動実績	件	-	-	-	
単位当たり コスト	算出根拠			単位	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度活動見込	
	X:実績額(百万円) / Y:交付団体数(団体)			単位当たり コスト		-	-	-	-
				計算式	X / Y	-	-	-	-

政策評価	政策	1 少子・高齢化等に対応した住生活の安定の確保及び向上の促進										
	施策	2 住宅の取得・賃貸・管理・修繕が円滑に行われる住宅市場を整備する										
	測定指標	定量的指標			単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標 - 年度	目標年度 7 年度		
		令和7年度までに、25年以上の長期修繕計画に基づく修繕積立金額を設定している管理組合の割合。		実績値	件	-	53.6	-	-	-	-	
				目標値	件	-	-	-	-	70		
		定性的指標	目標		目標年度	施策の進捗状況(目標)						
							施策の進捗状況(実績)					
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係											
	本事業の成果として得られるマンション再生の事業手法や合意形成のプロセスの蓄積を全国に水平展開し、活用されることで、マンションの長寿命化に資する改修等の再生の促進が図られることが、政策目標及び施策目標に貢献し、定量的指標の達成度にも反映されている。											
	新経済・財政再生計画改革工程表 2019	取組事項	分野:	-	-							
(第一階層) KPI		KPI (第一階層)			単位	計画開始時 - 年度	元年度	2年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度		
				成果実績	-	-	-	-	-	-	-	
				目標値	-	-	-	-	-	-		
		達成度	%	-	-	-	-	-	-			
(第二階層) KPI		KPI (第二階層)			単位	計画開始時 - 年度	元年度	2年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度		
				成果実績	-	-	-	-	-	-	-	
	目標値			-	-	-	-	-	-			
		達成度	%	-	-	-	-	-	-			
-												

政策評価、新経済・財政再生計画との関係

事業所管部局による点検・改善

	項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	今後、老朽化マンションの急増が見込まれる中で、マンションの再生検討から長寿命化に資する改修等の課題を解決するモデル的な再生プロジェクトに対して支援する本事業は、国民や社会のニーズを的確に反映している。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	本事業により得られる老朽化マンションの再生の事業手法や合意形成のプロセスは、事例を集約して全国に展開するため、各地方自治体や各民間団体で実施するよりも国により一括で実施する方が効果的である。 また、マンションの再生については、マンションのストックに対して実施の件数が少なく、地域によってノウハウの蓄積にばらつきがあることから、地方自治体、民間等に委ねることは困難である。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	今後急増することが見込まれる、老朽化マンションが抱える課題に対し、モデル事例を支援し、成功事例を創出して示し、その事業手法や合意形成のプロセス等を水平展開することにより、他のマンションの再生促進を図ることから、有効な達成手段である。また、住生活基本計画等への位置づけがあることもあり、優先度の高い事業である。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	公募により選定する。
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。		
	競争性のない随意契約となったものはないか。		
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	事業に実施に必要な費用に限定して支出する。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	-	
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	-	
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	
事業の有効性	繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	
	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	-	
	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	-	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-	
関連事業	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	-	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	-	
	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-	
	所管府省名	事業番号	事業名
点検・改善結果	点検結果	-	
	改善の方向性	-	

外部有識者の所見

-

行政事業レビュー推進チームの所見

高経年マンションの維持管理の適正化や再生に向けた取組は喫緊の課題であり、本年、マンション管理法及びマンション建替法の改正が行われたところ。マンションの長寿命化につながるモデル性の高い事業の支援に向け、適正に事業を執行すべき。

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

マンション管理適正化法及びマンション建替円滑化法の改正を踏まえ、高経年マンションの長寿命化に資するモデル性の高い事業の支援に向け、適正な事業執行に努める。

備考

-

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度 -	平成23年度 -	平成24年度 -	平成25年度 -
平成26年度 -	平成27年度 -	平成28年度 -	平成29年度 -
平成30年度 -			
平成31年度	国土交通省 (新32 - 0014)		

※令和元年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
 (単位: 百万円)

